

隅田川に架かる復興橋梁

東京市役所発行の『帝都復興事業図表』第12図の「十大橋鳥瞰図」には、上段に隅田川に架かる10の橋梁が描かれていますが、下段の表には「復興九大橋梁」とあり、数が合いません。

震災時、吾妻橋、厩橋、永代橋、両国橋、新大橋は鉄橋でしたが、吾妻橋、厩橋、永代橋は床が木造だったため床が焼失、両国橋も桁の一部が木造だったため、通行できなくなりました。相生橋については、大正8年に改築していますが、木橋だったのでやはり大きな被害を受けています。

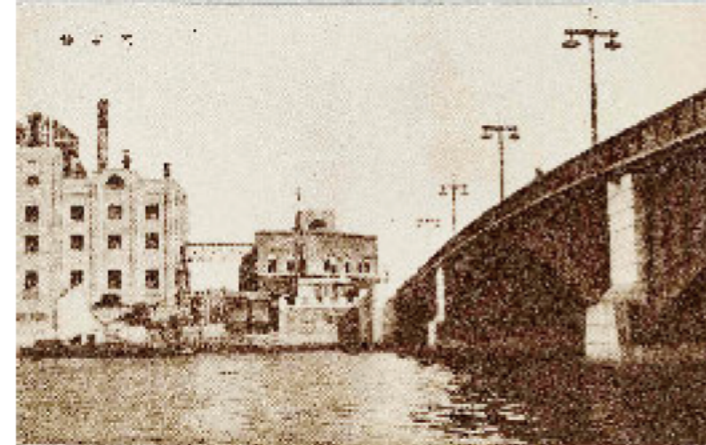
しかし描かれている新大橋は、大きな被害を受けませんでした。新大橋は、橋台や橋脚が鉄筋コンクリート、床も鋼板の上にコンクリートを敷いた造りだったため、通行が可能だったのです。震災後、この橋によって多くの人命が救われたことから「お助け橋」と呼ばれるようになりました。

第12図の上段と下段では数が合わないのは、このような理由があったからです。

「復興橋梁」参考文献：
 紅林章央『橋を透して見た風景』都制新報社、2016/復興事務局『帝都復興事業誌 土木編 上巻』1931/復興局橋梁課『橋梁設計図集 第二輯』1928/東京市役所『東京震災録 中輯』1928/復興調査協会編『帝都復興史（附横浜復興記念史）』復興調査協会、1930/『東京市公報』1928、1930、1932、1935

「復興橋梁」画像：
 国（復興局）施工：復興局『橋梁設計図集 第二輯』1928/吾妻橋：都立中央図書館デジタルアーカイブ「大東京三十五区」1937/厩橋：復興局『帝都復興記念帖』1930/両国橋：Tokyo Municipal Office編『THE RECONSTRUCTION OF TOKYO』1933/聖橋：東京市編『復興』1930/ニコライ堂と聖橋：復興局『帝都復興記念帖』1930

②吾妻橋



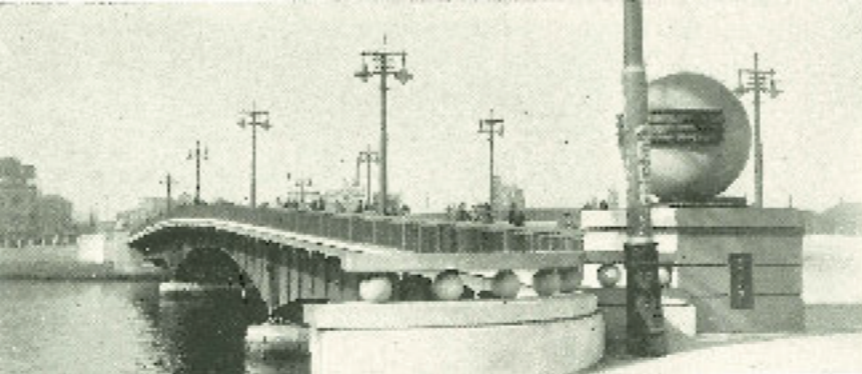
施工：東京市 型式：上路型二鉸鋼筋肋拱 橋長：150.000m 橋幅：20.000m
 起工：昭和4年6月 渡橋式：昭和5年12月20日

④厩橋



施工：東京市 型式：下路型鋼筋繫拱 橋長：152.000m 橋幅：22.000m
 起工：大正15年9月 竣工：昭和4年9月

⑥両国橋



施工：東京市 型式：上路型突桁式鋼筋桁 橋長：164.500m 橋幅：24.000m
 着工：昭和5年2月19日 開通式：昭和7年5月18日

⑦清洲橋



施工：国（復興局） 型式：鋼吊橋 橋長：186.600m 橋幅：22.000m
 着工：大正14年3月19日 開通式：昭和3年3月15日



各橋梁の型式等は『帝都復興事業図表』を採用しています。

「東京府郡区全図」でみる 明治時代の隅田川橋梁

「東京府郡区全図」は、多摩地域が神奈川県から東京府に移管され、現在に近い行政区域になった明治26年（1893）の3年後、明治29年の図です。

当時隅田川には、吾妻橋、厩橋、両国橋、新大橋、永代橋が架かっていました。

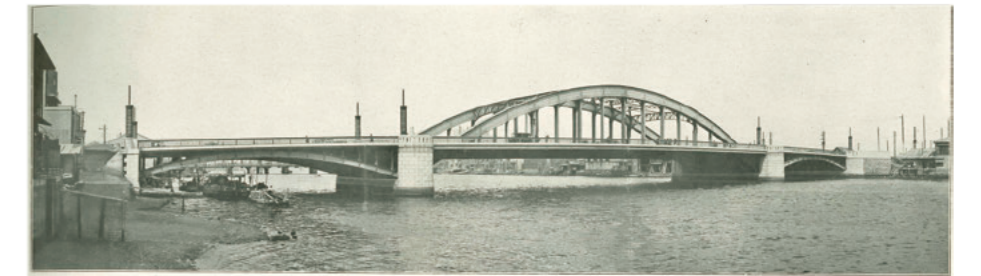
（「東京府郡区全図」明治29年より抜粋）

①言問橋



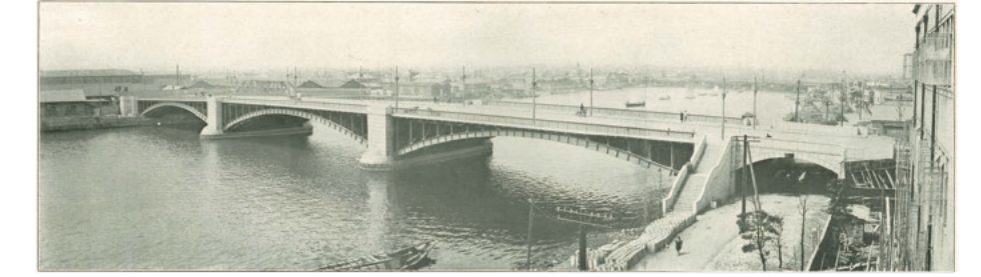
施工：国（復興局） 型式：上路型突桁式鋼筋桁及鋼筋連続桁（陸橋部）
 橋長：238.354m 橋幅：22.000m 起工：大正14年5月11日 開通式：昭和3年2月10日

③駒形橋



施工：国（復興局） 型式：下路型二鉸鋼筋肋拱（中央）及上路型二鉸鋼筋肋拱（両側）
 橋長：148.793m 橋幅：22.000m 起工：大正13年7月25日 開通式：昭和2年6月25日

⑤蔵前橋



施工：国（復興局） 型式：上路型二鉸鋼筋肋拱及二鉸鉄筋混凝土拱（片側）
 橋長：173.196m 橋幅：22.000m 着工：大正13年9月2日 開通式：昭和2年11月26日

⑧永代橋



施工：国（復興局） 型式：下路型突桁式鋼筋繫拱（中央）及鋼筋単桁（両側）
 橋長：185.166m 橋幅：22.048m 着工：大正13年12月1日 開通式：大正15年12月20日

⑨相生橋



施工：国（復興局） 型式：上路型突桁式鋼筋桁、上路型鋼筋単桁
 橋長：大橋/145.974m 小橋/45.822m 橋幅：大橋/21.996m 小橋/21.996m
 着工：大正13年8月15日 竣工：大正15年11月20日 開通式：大正15年11月22日
 現在の橋：平成12年架設